

芸豪烈伝その24

天龍三郎

てんりゅう さぶろう

「命が果てるまで浪曲のために……」

写真・森 幸一ほか 文・おさだ衛



てんりゅう さぶろう 本名・阪口 春千代。大正4（1915）年、大阪市西区の出身。父は初代・広沢菊春。兄は二代・菊春。梅中軒鶯童に昭和4年に入門。名前は菊芳→小童丸→鳳童となる。昭和15年に改名して現名に。昭和54年、浪曲親友協会理事長に就任。大阪府芸術功労賞など受賞多数。十八番は師匠ゆずりの『吉原百人斬り』『吃又』『紀伊国屋文左衛門』など

芸能生活66年。関西浪曲界のドンは今（80歳）を越してますます意気軒昂だ。落語の柳家小三郎（82）や清元の清元志寿太夫（百歳）などと同様に一回でも多く聞いておきたい大看板だ。「私は本来は照れ性でして、表舞台で脚光を浴びるよりも裏方で企画を立てたり、いろいろプロモーションをするのが性に合っているんです」

業、歌謡ショーやプロ野球のオープン戦（近鉄対阪神）などの興行を成功させた実績がある。その興行師として、いまの浪曲界を見ると、「自分も浪曲を演じて、あまりにもお金にならない。五百人の観客を呼ぼうとしたら宣伝に百万円かかります。いまは宣伝費を出す資本家もいません。将来は暗いです。もちろん私は命が果てるまで浪曲のために、がんばりますよ」

浪曲復活の要因として、演じる場所の確保、若手の進歩成長を促すこと、客に理解しやすく親しめる演題を心がけることなどを指摘する。

「今の若手は覚えたことしかできない。お客さんがなにを望んでいるのかを考えて、機転を利かしてほしい」

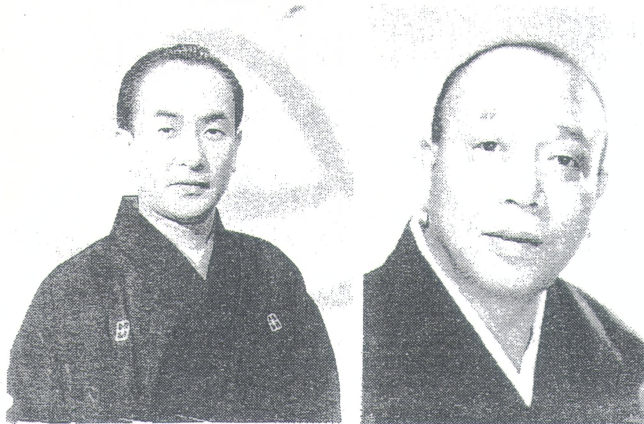
色紙に書く言葉は「一声に命を懸ける晴れ舞台」「流汗樂しむ晴れ舞台」だが元来、浪曲は好きではなかった。

「浪曲をやりはじめて2、3年で、これはアカンと思った。お客さんが40代、50代ばかりです。今でいえば80、90歳代ですよ。レビュウや映画を見る人が浪曲に目を向けてくれるのかという危機感です。それと古い社会ですからね」

浪曲に目覚めたのは戦時中だった。

「戦場で慰安のひとつとして、乃木大将伝なんか語るんです。三味線の伴奏なしのアカベラです。何千人の兵士が涙を流しながら一言も聞き漏らすまいとしている。ああ、浪曲をおぼえていて、よかったと実感しましたよ」

師匠の梅中軒鶯童（右）。「きさくな方でした。浪曲ぎらいの私が師匠の舞台を見て浪曲が好きになりました。柔らかい浪曲ですが心が通っていました。兄の二代目・広沢菊春（左）は仲は良くなかったが、兄貴の浪曲を聞いていて、うまいなあと思いたった。もちろん、そんなこと兄貴には言いませんでした」



師は達意の名文家としても有名で本誌に連載した「浪曲戦前戦後」(94年6月号から95年5月号まで)は資料的にも価値が高い。また阪口三夢というペンネームで「五尺の大関」「阿武松」などのネタも書いている。

いわゆる三道楽は、

「女は嫌いではなかった。女房には迷惑をかけました。昔の女房はしんぼう強かった。酒は飲みません。飲むと体が寒くなるんです。親父は高座で時々、酒を飲んでましたな」

父は初代の広沢菊春。兄が名人とうたわれた二代目の広沢菊春。



昭和24年、三味線・藤信初子、ギター・長井タカヤ。大阪では最も放送回数が多い浪曲師だ。浪曲の土着性と近代的センスが混じる名人芸。

「兄貴とは仲がわるかった。そりが合わなかった。兄貴は世渡りがうまく如才ないタイプでした。どつきあったら、ぼくの方が強かったですよ、ハハハ。ですが台本のこなし方は日本いちだった」

テレビはニュースを見る。時代の流れを知るためだが、

「いまの政治家は腐りきってますね。明治維新の頃なら憂国の志士にみんな切られてますよ。国のために働いている政治家が本当にいるんですかね」

師の話は実に面白い。こちらの意図を汲んで、簡潔にそして興味深いエピソードを



梅中軒簾童の本・「浪曲旅芸人」が原作のNHKドラマ「流れ雲」の打ち上げにて(昭和44年)。右から桂小文枝(現・桂文枝)、主役の金田龍之介、主役の浪曲の吹き替えをした天龍三郎、春野百合子。

ソードを加えてくれる。師は81歳という年齢で自動車の運転が達者だが、「ぼくは安全運転を心掛けてますからね。しかし目はよくないんです。老眼、近視、乱視、色盲です。戦時中、鉄砲が当たらない。敵の中国兵が、お前の鉄砲は外れつばなしだという仕事をします。こういう具合に……」

多方面に渡る交際については、

「作家の長谷川伸さんの家にお邪魔したことがあります。先生が奥さんに『魚河岸に行って鯛を買ってこい』というんです。奥さんが鯛がなかったらと聞くと先生は『その時はイワシでいい』と。もともとイワシが食べたかったんだね」と楽しい逸話を披露してくれる。

視野が広く的確な現状分析ができる師の活躍は舞台だけにとどまらない。一時代を築いた師だが、むしろ本番はこれからかもしれない。



熱烈な野球ファンでもある。近鉄バファローズの後援会の副会長だ。カズ山本選手と。

浪曲…これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

27/52

浪曲家の皆さん…頑張ってください。
多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉